

# 師範・準師範部

## 【ペン習字部】

		鶏頭	妖艶	深紅	観賞
		古名	韓藍	外来	植物

←行書体

→草書体

【D型用紙】

- D型（八つの語句）の課題です。
- 今回は鶏頭に関する語句を書いてみましょう。
- 右半分は行書体で、左半分は草書体で書いて下さい。
- 草書体が浮かばない場合は、川原玄雲著「常用漢字三体字典」などで調べて下さい。この場合、見て書くだけでなく覚え込むことが大切です。

〈参考〉鶏頭は、七、八〇センチあまりのたくましい紅色の茎を直立し、妖艶な鶏冠状の花序をなして、深紅の無数の細花のかたまりをつける。赤がふつうで、黄、白などもあり、霜の降りるころまで咲きつづける。観賞花として庭に植えられる。古名、韓藍。外来植物で、花汁をうつし染に使ったので、この名がある。

## 【実用毛筆部】

四季を文学にたとえて見れば、  
春は抒情詩、夏はドラマ、  
秋はエッセイ、冬は小説である。  
萩原朔太郎「阿帯」より

【A4白紙】

- たて書き名言課題（萩原朔太郎「阿帯」昭和十五年）です。
- A4白紙をたて置きにしてたて書きして下さい。改行の位置、行数は自由とします。体裁よく収めて下さい。書体は楷書体または、行書体で書いて下さい。
- 行間、余白等に十分留意しながら、全体の調和をよく図って書くようにします。
- 句読点は書かなくても構いません。
- ふりがなは書かないこと。

※萩原朔太郎（一八八六～一九四二）：大正昭和時代前期の詩人。父は医師。大正二年北原白秋主宰の「朱鷺」に詩を発表し、同誌を通じて室生犀星と生涯の親交をむすぶ。第一詩集「月に吠える」、第二詩集「青猫」で口語自由詩を完成させた。

# 師範・準師範部

## 【書道部】

仰観山伏聴泉

仰・観・山・伏・聴・泉

## 【かな書道部】

道のべの  
木槿は馬に  
くはれけり

【半紙】

- 上の枠内の六文字を半紙に自運して下さい。
- 書体は自由とします。二書体を選んで提出して下さい。この課題の他に1ページの条幅課題を提出されても結構です。
- 小画仙半切にこの六文字を作品としてまとめるようにお勧めします。
- 小画仙半切に書く場合は、作品制作の様々な技法を用いて書くようにしましょう。
- 読み：仰ぎては山を観、伏しては泉を聴く
- 意味：顔をあげては山を見、うつむいては水の音を聞く。



● 出典：歐陽脩『豊楽亭記』

- 俳句ちらし書き（芭蕉・野ざらし紀行）の課題です。
- 半紙をたて置きにして書いて下さい。
- 書体は自由とします。変体仮名使用可。漢字を仮名にまた仮名を漢字に変えてもかまいません。
- 小画仙半切にこの俳句を作品としてまとめてみることをお勧めします。
- 落款および落款印は入れても入れなくてもかまいません。

● ふりがなは書かないこと。  
● 意味：馬に乗って道中を行っていると、ふと木槿の花が目にとまったが、とたんに乗っている馬がぱくりと食べてしまったことだ。